

Pro Cultura Hungarica ハンガリー文化勲章
ハンガリー共和国国家人材省大臣 バログ・ゾルターン

推薦文・事由書

Pro Cultura Hungarica Emlekplakett 委員会御中

ブダペスト、2017年2月20日

リスト音楽院の学長として、Pro Cultura Hungarica Emlekplakett の理念にもとづき、日本のピアニストである谷本聡子を推薦する。谷本聡子は日本のピアニストとして、日本とハンガリーの文化交流を深める活動を、演奏家として教育者として模範的な仕事を行い、ハンガリーの音楽文化普及のために、たゆまぬ努力を続けてきたことが、本顕彰に値するものである。

谷本聡子は、コダーイ・ゾルターン賞を受賞した民族音楽学者谷本一之を父として、日本とハンガリーの関係構築に寄与した谷本美智子を母とし、幼少の頃からハンガリーとハンガリー音楽に親しんできた。このような家庭環境のもとで、ハンガリー文化への並々ならぬ敬愛を育んできた。両親と共にブダペストで1年間を過ごし、そこから生涯の方向性を見いだした。スィラージ・ガブリエラ、マーティー・クララ、ショイモシュ・ペーテルに指示してピアノを学び、1987年にリスト音楽院のソリストコースの学位を取得した。ここでは、ラドシュ・フェレンツ、デヴィッチ・シャンドール、クルターグ・ジョルジュから知見を深め、ドイツでの大学院時代には、ハザイ・ティボールからも薫陶を得た。優れた才能は国際的な成功を導き、演奏家としても教育者としても活動を広め、現在、札幌大谷大学ピアノコース主任教授として、また国際的なフェスティヴァルでソリストとして活躍し（ブダペスト春の音楽祭、ブダペスト Cafe フェスティヴァル、ルガーノ音楽祭等）、国際的に知られるオーケストラやそのメンバーと共演している。（ボストン交響楽団員、ウィーン・フィルハーモニー団員、ブダペスト弦楽四重奏、サルツブルグ・ゾリステン、札幌交響楽団、日本フィルハーモニー等）。

とりわけ、ハンガリーの演奏家との共演は多く、ペレーニ・ミクローシュ、コヴァーチ・ディーネシュ、ケラー・アンドラーシュ、ドラホシュ・ベーラ、サトマーリ・ジョルト、メラート・アンドレア、小林研一郎、ケラー・弦楽四重奏団等との共演がある。両親の努力を受け継ぎ、日本とハンガリーの音楽的関係の活性化のために活動している。日本－ハンガリー友好協会、日本－ハンガリー・フェスティヴァル実行委員会、東京ハンガリー・フェスティヴァルの活動に参加し、現在は日本－ハンガリー友好協会北海道支部長を務める。文化的な活躍によって、札幌市文化奨励賞を受賞し、1997年の札幌バルトークコンサ

ートにおける素晴らしい演奏によって、札幌市芸術祭大賞を受賞した。

また、2016年10月にハンガリー政府によって組織された国際同窓会の特別招待者として演奏を行った。

このような活動は専門・教育分野でも発揮され、札幌におけるコダーイ、バルトーク、リストセミナーの組織者および通訳者として活躍している。

こうして、ハンガリー、ヨーロッパの芸術的価値を日本に伝えることを担ってきた。

20年継続している、札幌コンサートホールリスト音楽院セミナーの専門的水準はきわめて高く、全国から参加した優れた学生たちが、翌年のブダペスト春の音楽祭でコンサートを行っている。

同時に行われる non-degree 試験において、優れた学生が、リスト音楽院での勉強を始めるきっかけとなった。

谷本聡子は札幌大谷大学において、ヨーロッパの伝統的ピアノ奏法を学生達に伝え、リスト音楽院の先生方とも良好な関係を保ちながら、幅広い教育活動を展開している。

また、リストの直系弟子として、自らのピアノ研究組織を指導し、リストのピアノ作品を中心にセミナーやコンサートを企画して広く、伝承する活動をしている。

すでに札幌大谷大学へは、35年に渡り、リスト音楽院より、30名を超える先生方や6団体の演奏グループが客員教授としてマスターコースで教え、札幌・北海道の若い音楽家の広い指導を助けている。こうした専門的で幅広い人脈のさらなる発展に、谷本聡子がきわめて重要な役割を果たしており、専門的知識の普及に役立っている。ラジオ番組や北海道国際交流音楽プログラムを通して、教員、学生、芸術家の経験交流が続いている。

谷本一家に綿々と受け継がれている、日本ーハンガリーの音楽文化の活性化のために、谷本聡子は日本において、生涯にわたる、たゆまぬ努力を続けている。その活動の範囲は地理的・文化的・分野・国境を超えて、コダーイ、バルトーク、リストが特別な位置を占める両国の文化的財産を広く認知されることに貢献している。

これらすべてを踏まえ、ピアノ芸術家谷本聡子が、ハンガリー文化の日本における認知と普及に果たした優れた業績にたいして、確信をもって、Pro Cultura Hungarica 委員会に顕彰を推薦するものである。

リスト音楽院学長

ヴィーグ・アンドレア